# 2024年度 公益社団法人日本地すべり学会 関東支部 総会資料



The Japan Landslide Society

Kanto Branch

2024年5月9日 日比谷図書文化館(東京都)

#### お知らせ

# 本部行事

●社員総会・シンポジウム(令和6年能登半島地震で引き起こされた地すべり)

• 意見交換会

期日:2024年6月7日(金)

場所: TKPガーデンシティ渋谷(東京都渋谷区)・オンライン併用

●第63回(2024年度)研究発表会及び現地見学会

期日:2024年9月17日~9月20日

場所:宮城県仙台市、仙台国際センターほか

# 支部行事

今後、現地検討会・講演会等を予定しております。

詳細情報は、決まり次第、学会メーリングリストで連絡するほか、関東支部ホームページに掲載します。

# 会場利用に関するお願い

- 1. 館内は、レストラン(地下1階)・カフェ(1階)以外は、<u>飲食禁止</u>です(蓋つ きドリンクを除く)
- 2. 館内は、<u>撮影禁止</u>です(事務局は記録のために許可を得て会場内の撮影を行います)
- 3. 会場内では、携帯電話の電源を切るか、マナーモードにしてください。

# 2024 年度

# 公益社団法人日本地すべり学会関東支部

# 総会次第

日時: 2024年5月9日(火) 11:00~12:00

場所:日比谷図書文化館(地下1階)大ホール (東京都千代田区)

1. 開会

2. 挨拶 関東支部長 新井場公徳

3. 来賓挨拶 一般社団法人斜面防災対策技術協会 関東支部長 佐藤健一様

4 議事

4-1. 議長選任

4-2. 議案

第1号議案 事業報告及び決算の承認に関する件

第2号議案 支部長、副支部長、監事の選任に関する件

4-3. 報告

報告1 支部役員の退任・選任等

報告 2 2024 年度事業計画・予算に関する報告

4-4. その他

5. 閉会

#### 【参考】関東支部会員数

基準日	議決村	権を持つ支部会員数	総会の定数
	基準日におけ 基準日以降に支部に所属し		
	る支部会員	た正会員(個人):総会出席者	
2024年3月31日	① 444名	② 6名	(1) + (2)/5 = 90

# 第1号議案 事業報告及び決算の承認に関する件

#### 1. 2023 年度事業報告(2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日)

(1)総会・シンポジウム

期 日:2023年5月9日

場 所:日比谷図書文化館(地下1階)大ホール

(東京都千代田区日比谷公園 1-4)

出席者数 29 名 委任状数 113 名 計 142 名 (定足数 91 名以上)

総会終了後、シンポジウム「地震時の地すべり」開催:参加者70名

- ・関東地震 (1923) による土砂災害の概要と Poole の逃避行ルート 井上公夫 ((一財) 砂防フロンティア整備推進機構・専門研究員)
- ・関東地震による震生湖の地すべりについて 千木良雅弘((公財)深田地質研究所・理事長)
- ・都市部に隠れた地震時盛土地すべりとその課題 太田英将((有)太田ジオリサーチ・相談役)
- ・総合討論(コーディネータ:新井場公徳・関東支部支部長)
- 概要集発行

#### (2) 現地検討会

テーマ:河振地すべり防止区域(群馬県甘楽町)

期 日:2023年10月26日

場 所:群馬県甘楽郡甘楽町秋畑地区(河振地すべり)

協 力:群馬県西部農業事務所

参加者:12名(有料)

内容:河振地すべりの概要と地すべり観測・対策工等を見学

(3) (一社) 斜面防災対策技術協会 関東支部との共催事業

名 称:合同見学会「譲原地すべりと対策工事の見学」

期 日:2023年11月22日

場 所:群馬県藤岡市譲原地区(譲原地すべり)

主 催:(公社)日本地すべり学会関東支部・(一社)斜面防災対策技術協会 関東支部

協 力:関東地方整備局利根川水系砂防事務所

参加者: 34 名 (無料)

内容:譲原地すべりの概要と既往対策施設及び施工中の対策工等を見学

#### (4) 若手対策事業

名 称:地すべり対策技術に関する基礎勉強会-地すべり地形判読-

期 日:2024年1月20日

場 所:東京都市大学 横浜キャンパス2号館1階

参加者:25名(無料)

内 容:「地すべり地形判読」をテーマにベテランの実践的知識を若手が学ぶ勉強会 2023年度事業計画において「学会本部との協議を踏まえて企画検討」としていたもの について、本部への申請が認められたため実施したもの。

## (5)運営委員会・幹事会

#### ①運営委員会

- ・第1回 2023年4月24日 オンライン会議 出席者15名
- ・第2回 2024年2月27日 オンライン会議 出席者18名

#### ②幹事会

- ・第1回 2023年4月18日 オンライン会議 出席者11名
- ・第2回 2023年6月30日 オンライン会議 出席者12名
- ・第3回 2023年9月21日 オンライン会議 出席者9名
- ・第4回 2023年12月22日 奥山ボーリング(株)会議室 出席者11名
- ・第5回 2024年2月27日 オンライン会議 出席者18名

#### (6) 広報活動等

・関東支部 Web ページ更新

# 2. 2023年度決算(2023年4月1日~2024年3月31日)

表 1 2023 年度決算(2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日)

大科目	中科目	小科目	細目	予算	決算	決算-予算	備考
			シンポジウム	200,000	70,000	▲ 130,000	
			意見交換会	250,000	0	▲ 250,000	
		事業収益	現地検討会	50,000	22,000	▲ 28,000	
	当期収益		技術講習会	0	88,000	88,000	若手対策事業
   支部収益			その他事業活動	0	0	0	共催事業
又即収益		受取利息			10	10	
		小計		500,000	180,010	▲ 319,990	
	資金移動(本部→支部) 若手会員対策(本部→支部)		300,000	300,000	0		
			支部)	0	150,000	150,000	
		計		800,000	630,010	<b>169,990</b>	
			シンポジウム	195,000	225,491	30,491	
			意見交換会	250,000	0	▲ 250,000	
	当期費用	事業費	現地検討会	140,000	86,635	▲ 53,365	
支部費用	<b>ヨ</b> 朔貝用		技術講習会	0	129,720	129,720	若手対策事業
			その他事業活動	120,000	50,470	▲ 69,530	共催事業
		管理費		95,000	114,290	19,290	
		言		800,000	606,606	▲ 193,394	
	当期収支差		0	23,404	23,404		

事業収支再掲					
区分	}	収益	費用	収支差	
シンポジウム	集合形式	70,000	225,491	▲ 155,491	
意見交換会	未実施	0	0	0	
現地検討会		22,000	86,635	<b>▲</b> 64,635	
技術講習会	若手対策事業	88,000	129,720	<b>▲</b> 41,720	
その他事業活動	共催事業	0	50,470	▲ 50,470	
計		180,000	492,316	▲ 312,316	

※決算の詳細は、次頁の別表1に示す。

# 3. 監査報告(2024年4月3日)

2023年度の支部事業及び会計について、支部監事により監査が行われた。

別表 1:2023 年度決算(2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日)

	加权 1.20	23 年度沃昇(2023 年				
【収益】			予算	決算	決算-予算	備考
170 M /	勘定	科目				
科目中科	目 小科目	細目				
部収益	de de		500,000		<b>▲</b> 319,990	
争来	収益 シンポジウム収益		500, 000 450, 000		▲ 320,000 ▲ 380,000	
	// / /A· <b>以</b> 亚	参加費	200, 000			参加者70名×¥1000
		意見交換会費	250, 000	0	<b>▲</b> 250,000	意見交換会未実施
	現地検討会収益	6 t- #	50,000	22, 000		
	技術講習会収益	参加費	50, 000 <b>0</b>	22, 000 <b>88. 000</b>		参加者11名×¥2000 若手対策事業
	汉州爵自云从亚	参加費	0	<b>88, 000</b>		石于 <b>对</b> 束争来
		意見交換会費	0	88, 000	88, 000	参加者20名×¥4400
	出版収益					
ļ	* 寄付		0	10	10	
立替	利息		0	IV	10	
部仮払金			300, 000	300, 000	0	
手会員対	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		300,000	150, 000		
	 計(A=支部収益+本	毎年10条)	800, 000		<b>▲</b> 169,990	
	11 (7-文即牧童*平	- 即以分並/	800,000	030, 010	A 109, 990	
費用】	粉点	科目		***************************************		
科目 中科		和目				
部費用		····	800, 000		<b>▲</b> 193,394	
事業			705, 000		<b>▲</b> 212, 684	
	シンポジウム会費	印刷製本費	<b>445, 000</b> 100, 000		▲ 219, 509 ▲ 22, 714	(当期未払金①¥7, 026)
		印刷聚本質 会場費(会場使用料)	30, 000	68, 600		(当期未払金(1)¥7,026) 会場使用料
		会議費(意見交換会含む)	250, 000	0	<b>▲</b> 250,000	意見交換会未実施
		諸謝金	60, 000	76, 745	16, 745	講師3名分
		旅費交通費 通信運搬費	3, 000	0	▲ 3,000 0	
		进信建版复 支払手数料	2, 000	2, 860		
	現地検討会費		140, 000	86, 635		
		印刷製本費	10, 000	0	<b>▲</b> 10,000	
		会場費(会場使用料)	0	0	0	
		会議費 (意見交換会含む) 諸謝金	10, 000	0		
		旅費交通費	0	0		
		借料(バス・レンタカー代)	80, 000	78, 221		
		通信運搬費	15, 000	2, 510		ヘルメット送料
		支払手数料 消耗品	10, 000	1, 740 0		
		支払保険料	15, 000	4, 164		
	技術講習会費		0	129, 720		若手対策事業
		印刷製本費 会場費(会場使用料)	0	0	0	
		会議費(意見交換会含む)	0	88, 000	88 000	意見交換会費用
		諸謝金	0	40, 000		講師1名+学生バイト6名
		旅費交通費	0	0		
		借料(バス・レンタカー代)	0	0	0	
		通信運搬費 支払手数料	0	1, 720	1, 720	
		消耗品	0	0	0	
	※その他の事	業活動(上記の3つ以外)	120, 000	50, 470	<b>▲</b> 69,530	共催事業
		印刷製本費	10, 000	0	▲ 10,000	
		会場費(会場使用料) 会議費(意見交換会含む)	0	0	0	
		去職員 (息兄又换去百七) 諸謝金	0	0	0	
		旅費交通費	10, 000	0		
		借料(バス・レンタカー代) 通信運動事	50, 000	26, 750		斜面協会から折半分の請求
		<u>通信運搬費</u> 情報システム費(サーバ管理費等)	15, 000 20, 000	13, 240 0	▲ 1, 760 ▲ 20, 000	(当期未払金②¥8, 220)
		支払手数料	0	220	220,000	
		支払保険料	15, 000	10, 260	<b>▲</b> 4,740	(当期未払金③¥10, 260)
管理	■費		95, 000	114, 290	19, 290	
	給与・手当		0	0		
	会場費		20, 000	0	▲ 20,000	
	会議費 印刷製本費		10, 000	0	<b>▲</b> 10,000	
	旅費交通費		10, 000	0	5,550	
	借料		0	0		
	通信運搬費	<b>車 双 田 口 弗</b>	15, 000	112 100		
	消耗品 備品	事務用品費	15, 000 25, 000	113, 190 0	98, 190	ヘルメット21個更新
	支払手数料		5, 000	0	▲ 5,000	
	雑費		5, 000	1, 100		残高証明+カード発行手数料
期費用合	計 (B)		800, 000		<b>▲</b> 193,394	
	額(C=A-B)		0	23, 404	23, 404	
	W.C - A D/			68, 600		
期前払金 期未払金				58, 500 25, 506	00,000	次年度シンポジウム会場費 当期未払金①+②+③
期繰越額				884, 718		
期繰越額				933, 628		

# 監查報告書 (関東支部)

2024年4月3日

公益社団法人 日本地すべり学会 会 長 笹原 克夫 殿

> 監事 白不克紫 監事 稿本岳志

2023年4月1日から2024年3月31日までの会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

# 1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて決算書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、会議等への出席、又は支部長から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

#### 2 監査意見

- (1) 決算書は、会計帳簿の記載金額と一致し、支部の経理の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 支部の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

※個人情報保護のため押印は非表示としております。

# 第2号議案 支部長、副支部長、監事の選任に関する件

# 1. 支部長、副支部長、監事の選任

第6期(2022-2023年度)の支部長、副支部長、監事の任期が満了するにともない、関東 支部運営内規第4条にもとづいて、第7期(2024-2025年度)の支部長、副支部長、監事 を次のとおり選任する。

# 2. 支部長、副支部長、監事の候補者

運営委員会による推薦者は、次のとおりである。

# 表 2 支部長、副支部長、監事の候補者

役職	氏名	所属	備考
支部長	新井場公徳	消防庁消防研究センター	再任
副支部長	若井明彦	国立大学法人 群馬大学大学院 理工学府	再任
監事	白木克繁	国立大学法人 東京農工大学 農学部	再任
監事	楠本岳志	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	再任

#### 3. その他の支部役員

第7期(2024-2025年度)の運営委員、幹事は、後掲の報告1、別表2のとおり、支部長が委嘱する。(関東支部運営内規第4条)。

# 報告1 支部役員の退任・選任等

2023年度総会以降における支部役員の退任・選任等は、次のとおりである。

# 1. 支部役員の退任

2023年5月以降に退任した運営委員・幹事は次表のとおりである。

# 表3 退任した運営委員・幹事

区分	氏名	所属	備考
運営委員	内藤浩史	山梨県 県土整備部 砂防課	2024/3 まで(人事異動の為)
運営委員	石丸 順	群馬県 環境森林部 森林保全課	2024/3 まで(人事異動の為)
幹事	馬場貴志	日本工営株式会社	2023/7まで
幹事	田中昭雄	株式会社環境地質	2023/9まで
幹事	滝口 潤	明治コンサルタント株式会社	2024/5 まで(人事異動の為)
幹事	齊藤雅志	国土防災技術株式会社	2024/5 まで(人事異動の為)
幹事	神山嬢子	国立研究開発法人 土木研究所	2024/3 まで(人事異動の為)
幹事	土門 晋	山梨県 県土整備部 砂防課	2024/3 まで(人事異動の為)
幹事	中村 明	日本工営株式会社	2024/3 まで(人事異動の為)

# 2. 支部役員の選任

2023年5月以降に、新たに支部長が選任した運営委員・幹事は次表のとおりである。

表4 選任した運営委員・幹事

区分	氏名	所属	備考
運営委員	山本佳敬	山梨県 県土整備部 砂防課	2024/4 より(人事異動の為)
運営委員	折田知徳	群馬県 環境森林部 森林保全課	2024/4 より(人事異動の為)
幹事	中村 明	日本工営株式会社	2023/8 より 2024/3 まで
幹事	下河敏彦	株式会社環境地質	2023/10 より
幹事	佐々木優	明治コンサルタント株式会社	2024/5 より(人事異動の為)
幹事	西尾克人	国土防災技術株式会社	2024/5 より(人事異動の為)
幹事	飯田健嗣	国立研究開発法人 土木研究所	2024/4 より(人事異動の為)
幹事	五味英司	山梨県 県土整備部 砂防課	2024/4 より(人事異動の為)
幹事	牧野孝久	日本工営株式会社	2024/4 より(人事異動の為)

# 3. 代議員の交替

関東支部選出の代議員のうち、正会員(団体)の代表者として選出された代議員に、代表者の変更があったことから、2024年4月に代議員の変更を本部に届け出ました(理事会報告事項)。

表 5 交替を届け出た代議員(関東支部)

区分		氏名		
山梨県県土整備部	旧	内藤浩史	ナイトウ ヒロシ	
砂防課	新	山本佳敬	ヤマモト ヨシタカ	
群馬県環境森林部	旧	石丸 順	イシマル ジュン	
森林保全課	新	折田知徳	オリタ トモノリ	

区分	氏名	所属	備考	役割 分担	
支部長	新井場公徳	消防庁消防研究センター			
副支部長	若井明彦	国立大学法人 群馬大学大学院 理工学府			
監事	白木克繁	国立大学法人 東京農工大学 農学部森林環境学講座			
<u></u> 五尹	楠本岳志	国立研究開発法人 農業·食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門			
	岡本 隆	国立研究開発法人 森林研究·整備機構 森林総合研究所 森林研究部門			
	山本佳敬	山梨県 県土整備部 砂防課	交代		
田本佳敬 折田知徳 上森弘樹		群馬県 環境森林部 森林保全課	交代		
		一般社団法人砂防・地すべり技術センター 斜面保全部			
<b>雷兴禾</b> 昌	宇次原雅之	日特建設株式会社 技術開発本部			
運営委員	小林 豊	日本サーベイ株式会社			
	小野田敏	アジア航測株式会社 社会インフラマネジメント事業部			
	平木慎一	株式会社日さく 東日本支社 調査部			
林一成		奥山ボーリング株式会社			
	正田大輔	国立研究開発法人 農業·食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門			
幹事長	木村勝美	大日本ダイヤコンサルタント株式会社 関東支社CSR部		総括	
可松声目	樽角 晃 応用地質株式会社			総務1	
副幹事長	林 一成	奥山ボーリング株式会社		総務2	
	飯田健嗣	国立研究開発法人 土木研究所	交代	企画2	
	正田大輔	国立研究開発法人 農業·食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門		企画2	
	經隆 悠	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林研究部門		総務1	
	土志田正二	消防庁消防研究センター		企画1	
	長谷川博	群馬県 環境森林部 森林保全課		広報	
松市	五味英司	山梨県 県土整備部 砂防課	交代	広報	
幹事	西尾克人	国土防災技術株式会社 関東支社管理部	交代	会計	
	佐々木優	明治コンサルタント株式会社	交代	企画1	
	牧野孝久	日本工営株式会社 中央研究所 技術開発センター	交代	総務2	
	下河敏彦	株式会社環境地質		企画1	
	松田昌之	アジア航測株式会社 社会インフラ技術部		企画1	
	小塚朋子				
出納事務 担当者	西尾克人	国土防災技術株式会社 関東支社管理部			
支部情報· 事務責任者	木村勝美	大日本ダイヤコンサルタント株式会社 関東支社CSR部			
アウトリーチ 連絡会担当	林一成	奥山ボーリング株式会社			
会員数 対策担当	土志田正二	消防庁消防研究センター			

# 幹事会役割分担

総括	全体調整・渉外	木村(幹事長)
会計	会計処理、監査対応、通帳の保管・出納処理 (出納事務担当者)	西尾
総務1	総会等運営	樽角•經隆
総務2	幹事会・運営委員会運営	林·牧野
企画1	現地検討会、講習会の企画・運営(現地検討会・若手対策事業)	土志田・下河・松田・小塚・佐々木
企画2	シンポジウムの企画・運営	正田・飯田
広報	広報活動·関係機関調整	長谷川・五味
	支部Web管理	林
特任事項	共催事業	林
	森林分野CPD管理	林

# 報告 2 2024 年度事業計画・予算に関する報告

## 1.2024年度事業計画(理事会承認)

(1) 支部総会: 2024年5月9日

(日比谷図書文化館地下1階大ホール(東京都))

(2) 関東支部シンポジウム: 2024年5月9日

(日比谷図書文化館地下1階大ホール(東京都))

- (3) 意見交換会: 2024年5月9日
- (4) 現地検討会
  - ・2024年9~11月 1回
- (5) 共催行事
  - ・2024年11月 (一社)斜面防災対策技術協会関東支部との共催
- (6) 運営委員会・幹事会等
  - ①運営委員会

第1回2024年4月、第2回2024年12月

②幹事会

第1回2024年4月、第2回2024年6月、第3回2024年9月 第4回2024年12月、第5回2025年3月

- ③ (一社)斜面防災対策技術協会関東支部との定例会 2024 年 6 月
- (7)災害調査
  - ・災害発生状況に応じて本部と連携し適宜実施
- (8) 若手会員対策事業
  - ・講習会と実習形式の勉強会を企画検討

# 2. 2024 年度予算(理事会承認)

2024年度予算は次のとおりである。

#### 表6 2024年度予算(2024年4月1日~2025年3月31日)

区分			予算	
			シンポジウム	450,000
		事業収益	現地検討会	50,000
		尹未以無	その他の事業	0
	当期収益		出版収益	0
収益	当粉収益	協賛∙寄	付	0
4X mm		雑収益		0
		受取利息	0	
		預り金	0	
	本部から	300,000		
	若手対策事業			150,000
当期収益	計			950,000
			シンポジウム	445,000
費用	当期費用	事業費	現地検討会	140,000
其用			その他の事業	270,000
		管理費		95,000
当期費用	計	•		950,000
当期収支	差		•	0

事業収支再掲				
区分 収益 費用 収支差				
シンポジウム	450,000	445,000	5,000	
現地検討会	50,000	140,000	▲ 90,000	
その他の事業	0	270,000	▲ 270,000	
計	500,000	855,000	▲ 355,000	

別表 3:2024年度予算(2024年4月1日~2025年3月31日)

			2023年度予算	2024年度予算	差額	備考
益】			2020 + 12 1 54	2021-127-	Æ HR	ив ту
目 中科目	小科目	細目				
収益			500,000	500,000	0	
事業収益			500,000	500,000	0	
	シンポシ゛ウム収益		450,000	450,000	0	
		参加費	200,000	200,000		シンポジウム
		意見交換会費	250,000	250,000	***************************************	意見交換会
	現地検討会収益	45 du di	50,000	50,000		現地検討会
	7 0 14 0 = 24 15 2	参加費 	50,000	50,000	0	
	その他の事業収益		0	0	0	共催事業、若手対策事業
	出版収益	参加費	0	0	0	
協賛∙寄			0	0	0	
雑収益	. [1]		0	0	0	
受取利	<u> </u>		0	0	0	利子
預り金	<u> </u>		0	0	0	79.1
からの運転	資金		300,000	300,000	0	
会員対策事			000,000	150,000	150,000	
		資金+若手対策事業)	800,000	950,000	150,000	
					_	ī
用】	小科目	<b>4</b> m □			0	
目 中科目 事 田	小科目	細目	800,000	050.000	150,000	
費用			705,000	<b>950,000</b> 855,000	<b>150,000</b> 150,000	
事業費	シンポシ゛ウム会費		445,000	445,000		シンポジウム
	ママかくソや云貝	印刷製本費	100,000	100,000	0	ノンハンソム
		会場費(会場使用料)	30,000	30,000	0	
		会議費(意見交換会含む)	250,000	250,000	0	意見交換会
		諸謝金	60,000	60,000	0	
		旅費交通費			0	
		通信運搬費	3,000	3,000	0	
		消耗品	2,000	2,000	0	
	現地検討会費		140,000	140,000	0	現地検討会
		印刷製本費	10,000	10,000	0	
		会場費(会場使用料)			0	
		会議費(意見交換会含む)			0	
		諸謝金	10,000	10,000	0	
		旅費交通費			0	
		借料(バス・レンタカー代)	80,000	80,000	0	
		通信運搬費	15,000	15,000	0	
		支払保険料	15,000	15,000	0	
	♥ ファルの事業	消耗品	10,000	10,000	0	11 /4 + 44 + - + 1 /4 + 4
	※その他の事業	行動(上記以外) 印刷製本費	120,000 10,000	270,000 20,000		共催事業、若手対策事業
		会場費(会場使用料)	10,000	10,000	10,000	
		会議費(意見交換会含む)		10,000	10,000	
		諸謝金		30,000	30,000	
		旅費交通費	10,000	20,000	10,000	
		借料(バス・レンタカー代)	50,000	100,000	50,000	
		通信運搬費	15,000	20,000	5,000	
		情報システム費(HP関係など	20,000	20,000	0	
		支払手数料				
		消耗品		20,000	20,000	
		支払保険料	15,000	25,000	10,000	
		その他		5,000	5,000	
管理費	F	<del></del>	95,000	95,000	0	
	給与·手当					
	会場費		20,000	20,000	0	
	会議費					
	印刷製本費		10,000	10,000	0	
	旅費交通費					
	借料		15.000	15.000	^	
	通信運搬費	<b>車</b>	15,000	15,000	0	
	消耗品	事務用品費	15,000	15,000	0	
	備品が書		25,000	25,000	0	
	外注費 支払手数料		E 000	E 000	0	
	文払手数料 雑費		5,000 5,000	5,000 5,000		
1	CACE H	1	5,000	ნ,000	U	1/2同皿切丁奴科
費用合計(			800,000	950,000	150,000	

# 公益社団法人日本地すべり学会 関東支部運営内規

#### 第1章 総則

(目的)

- 第1条 この内規は、公益社団法人日本地すべり学会関東支部の運営を円滑に進めることを目的として定める。
- 2. 関東支部の運営は、公益社団法人日本地すべり学会定款、公益社団法人日本地すべり学会規則(以下「学会規則」という)、支部運営細則、土砂災害緊急調査細則、研究発表会実施細則及びこの運営内規に基づいて実施する。

#### 第2章 支部役員

(支部役員)

第2条 関東支部に、学会規則の定める支部 長、副支部長、支部監事のほか、運営委員、幹 事長、副幹事長、幹事を置く(以下「役員」と いう)。

2. 役員の定員は下記のとおりとする。

支部長 1名

副支部長 1~2名

支部監事 2名

運営委員 5~20名

幹事長 1名

副幹事長 1~2名

幹 事 5~20名

3. 副支部長を2名置く場合は、代行順位を付けるものとする。第1順位の副支部長は、支部長に事故あるときにその職務を代行する。

#### (職務·報酬)

- 第3条 運営委員は、支部の運営を協議する。 2. 幹事は支部の運営に関する実務を行い、幹 事長はこれを総括する。副幹事長は幹事長を補 佐する。
- 3.役員は、無給とする。

#### (選任)

- 第4条 支部長、副支部長、支部監事は、運営 委員会が支部に所属する正会員のうちから推薦 し、支部総会において選任する。
- 2. 運営委員は、支部に所属する正会員のうちから支部長が委嘱する。
- 3. 幹事長、副幹事長、幹事は、原則として、 支部に所属する正会員のうちから支部長が委嘱 する。

#### (任期)

- 第5条 役員の任期は、2年とする。ただし、 再任は妨げない。
- 2. 支部長、副支部長、監事の任期の始期は、総会において選任された時とし、次期役員が総会において選任された時までとする。

- 3. 運営委員、幹事長、副幹事長、幹事の任期の始期は、支部長が委嘱した時とし、次期役員が委嘱される時までとする。
- 4. 役員が欠員となったときには、役員を選任することができるが、任期の終期は、欠けた役員の任期の終期と同じとする。

#### (解任)

- 第6条 役員が、次のいずれかに該当するに至ったときには、総会の決議によって解任することができる。
- (1) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えられないとき。
- (2)職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき

#### 第3章 支部総会

(構成・議長)

- 第7条 支部総会は、支部に所属する正会員をもって構成する。
- 2. 支部総会の議長は、支部総会において、支 部に所属する正会員(役員を除く)の中から選出す る。

#### (決議事項)

- 第8条 支部総会は、支部に関する次の事項を決議する。
- (1) 運営内規の変更、廃止
  - (2) 事業報告及び決算
- (3)会計および業務執行に関する支部監事の報告
- (4) 支部長、副支部長、支部監事の選任又は 解任
- (5) 幹事長、副幹事長、運営委員、幹事の解 任
- (6) その他、支部総会で審議することが決議 された事項

#### (定足数・議決)

- 第9条 総会は、支部に所属する正会員の 1/5 以上の出席がなければ開催することができない。
- 2. 総会の議事は、出席した正会員の過半数を持って決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。
- 3. 総会に出席できない正会員が、書面または 電磁的方法をもってあらかじめ意思を表示した 場合は、総会の定足数及び議決数に算入する。
- 4. 支部総会の議事については、議事録を作成しなければならない。
- 5. 支部長は、支部監事から、その事由を付した文書により支部総会の開催を請求された場合は、速やかに支部総会の招集をおこなわなければならない。

第4章 運営委員会

(構成・招集・議長)

第 10 条 運営委員会は、支部長、副支部長、支 部監事、運営委員のほか、幹事長、副幹事長を もって構成する。

2. 運営委員会の会議は、支部長が招集する。また、会議の議長は、支部長または副支部長がこれにあたる。

#### (決議事項)

第11条 運営委員会は、支部に関する次の事項を決議する。

- (1) 支部総会に付議するべき事項
- (2) 支部総会の決議事項の執行に関する事項
- (3) 事業計画及び予算
- (4) 支部長、副支部長、支部監事の推薦
- (5) その他運営に関する事項

#### (議決)

第12条 運営委員会の議事は、決議について特別の利害関係を有する者を除く出席した運営委員会の構成員の過半数をもって決する。

- 2. 運営委員会の議事については、議事録を作成しなければならない。
- 3. 運営委員会は、支部運営細則第6条第3項 および第4項に規定する会議を兼ねるものとす る。

#### 第5章 幹事会

(構成)

- 第13条 幹事会は、幹事長、副幹事長、幹事を もって構成する。
- 2. 支部運営を円滑に行うため、幹事長の下に総務、会計、広報、企画の担当を置く。

#### (役割)

第14条 幹事会は、支部長の指揮を受けて、次の事項を実施する。

- (1)総会、運営委員会の決議事項に関する事項
- (2) 支部長の指示した事項
- (3) その他運営に関する事項

#### (会議)

第15条 会議は、幹事長が招集し、必要に応じて、支部長または副支部長の参加を求めることができる。また、支部監事は、必要に応じて、会議を傍聴することができる。

- 2. 会議の議長は、幹事長または副幹事長がこれにあたる。
- 3. 幹事長は、会議の内容について、支部長に報告しなければならない。

#### (事務局)

第16条 幹事会の事務を効率的に処理するために、事務局を設置することができる。

2. 事務局の設置及び運営に関する事項については、支部長が定める。

#### 第6章 災害調査

#### (職務)

第17条 支部長は、支部区域で発生した災害に対して、調査チームを組織して、情報収集及び現地調査を行うことができる。

2. 支部長は、土砂災害緊急調査細則に定める土砂災害緊急対応委員会から要請があった場合は、調査団員の派遣等を行うものとする。

# 第7章 研究発表会実行委員会

(設置)

第18条 支部長は、研究発表会実施細則第4条 に定められた研究発表会開催の要請をうけ、実 施を委任された場合は、研究発表会実行委員会 を設置する。

2. 研究発表会実行委員会の設置のための準備、設置されるまでの間の対応は、幹事会が行うものとする。

#### 第8章 文書管理

(公的文書)

第19条 公的文書とは、支部の運営上発信が必要な文書で、かつ支部の代表印を押捺した文書をいう。

#### (文書の保管)

第20条 公的文書は、発信した文書の控えを幹事長が保管する。

2. 公的文書の保管期間は、原則として発信後2年間とするが、必要な場合は保管期間を延長することができる。

#### (名簿等の管理)

第21条 支部会員名簿は、必要に応じて、幹事 長が本部より提供を受けて、管理する。

2. 支部会員名簿等の取り扱いにあたっては、データの漏えいの防止等のために、必要な処置を講じなければならない。

#### 第9章 会計処理

(金銭の出納)

第22条 支部における金銭の出納、収納および 保管は、会計担当の幹事が行うものとする。

- 2. 支部が管理する預金の出納に使用する印鑑は、支部長の職名を刻した印とし、会計担当の 幹事が保管し押印する。
- 3. 支部運営細則第8条に規定する支部の出納 事務担当者には、会計担当の幹事をあてる。 (監査)

第23条 支部監事は、決算時および必要と認められる場合は、支部の会計について監査を行

い、文書により支部総会に報告しなければならない。

#### (会計書類の管理)

第24条 会計書類は、直近2年分を会計担当の 幹事が保管する。また、それ以前の分は、本部 に保管を依頼する。

2 会計書類の取り扱いにあたっては、滅失、き損の防止等のために、必要な処置を講じなければならない。

# 第10章 技術委員・研究会 (技術委員)

第25条 支部長は、技術者教育、啓発活動を行うために、原則として、支部に所属する正会員のうちから、技術委員を委嘱することができる。

2. 技術委員の任期は、第5条に定める役員の任期と同等とする。

(研究会)

第 26 条 支部長は、特定のテーマの調査研究活動を行うために、研究会を設置することができる。

#### 付 則

- 1. 本運営内規は、平成24年10月1日から施行する。
- 2. 本運営内規の変更 (第4条、第17条) は、 平成28年5月12日から施行する。
- 3. 本運営内規の変更(第22条、第25条、第 26条)は、平成29年5月12日から施行す る。
- 4. 本運営内規の変更(第20条、第21条、第 24条)は、平成30年5月7日から施行す る。
- 5. 本運営内規の変更(第19条、第20条) は、令和元年5月10日から施行する。
- 6. 本運営内規の変更(第9条)は、令和2年5 月9日から施行する。

# 総会・シンポジウム開催状況【2023/5/9】



来賓挨拶((一社)斜面防災対策技術協会 関東支部長 佐藤健一氏)



総会(議長 (一財) 砂防・地すべり技術センター 武士俊也氏)



講演 関東地震による震生湖の地すべりについて (千木良雅弘氏)



講演 都市部に隠れた地震時盛土地すべりとその課題(太田英将氏)



シンポジウム 開会挨拶 (新井場支部長)



講演 関東地震 (1923) による土砂災害の概要と Poole の逃避行ルート (井上公夫氏)





総合討論

# ■ (公社) 日本地すべり学会関東支部 令和 5 年度現地検討会 開催報告 「河振地すべり防止区域 (群馬県甘楽町)」

(公社) 日本地すべり学会関東支部

#### 1. 実施概要

本年度は、群馬県西部農業事務所のご協力を得て「河振地すべり防止区域(群馬県甘楽町)」を対象とした現地検討会を実施しました。

河振地すべりは、群馬県南西部を流れ鏑川の支流雄川 上流左岸、標高 400m~700m の南向き斜面に位置する農 地地すべり防止区域です。奥行き 0.8km の大規模な地 すべりです。

令和元年の台風 19 号により地すべりが滑動し、末端付近を横切る県道富岡神流線と直下を流れる一級河川雄川護岸が被災し、その後県土整備部により復旧対策が行われています。今回の現地検討会では、ボーリング調査の結果や地すべり地の計器観測等に加え、施工済みの対策工の見学を通し、地すべり対策の理解を深めることを目的に開催いたしましたので御報告します。

(1) 開催日:令和5年10月26日(木)

(2) 開催場所:群馬県甘楽郡甘楽町秋畑地区

(3) 主催:(公社) 日本地すべり学会 関東支部

(4) 協力:群馬県西部農業事務所

(5) 参加人数:12 名

#### 2. 検討会の内容

最初に、群馬県西部農業事務所より河振地すべりの概要、対策工状況などをご紹介いただきました。その後、河振地すべりの末端付近にある集水井の中の状況を観察しました。さらに、群馬県西部農業事務所及び当該地すべり地で動態観測・対策を受託する日本サーベイ株式会社小林豊様の案内で、地すべり内に設置された孔内傾斜計、水位計並びに集水ボーリング工などを見学しました。

午後は、当該地すべりで採取された調査ボーリングのコアの観察会を行いました。観察会では、多数のボーリングコアを間近で観察し、コアにみられるすべり面の性状の特徴を勉強しました。さらにボーリングコアと午前中に観察した対策工・計器観測の結果を踏まえて、地すべり全体の動きや特性等について白熱した議論が行われました。

最後に、地すべり下方に位置する雄川河床にて、当該 地域を構成する三波川帯の片理の発達した結晶片岩や緑 色片岩(御荷鉾ユニット)の露頭を観察しました。残念 ながら、以前確認されていた露頭の一部が工事等により 消失していましたが、片岩などの当該地域を構成する地 質の露頭を観察することができました。

今回は、河振地すべりについて、地すべりの概要や地すべり対策工・動態観測など、地すべり対策について一通りの内容を見学し、大変わかりやすく良い経験ができたと考えております。

#### 3. おわりに

関東支部では、今後も現場に密着した講習会や現地検討会に加え、学生・若手技術者の育成をテーマとした活動を実施していく予定です。

最後に、現地検討会の開催にあたり、御協力を頂いた 群馬県西部農業事務所の皆様、また、現場案内を頂いた 日本サーベイ株式会社の小林豊様・関様には大変お世話 になりました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。



写真-1 地すべりブロック内での地形観察状況



写真-2 コア観察会の状況



写真-3 集水井前にて記念撮影

(関東支部幹事会 松田昌之)

# ■ (公社) 日本地すべり学会関東支部・(一社) 斜面防災対策技術協会関東支部 「譲原地すべりと対策工事の見学」開催報告

#### (公社) 日本地すべり学会関東支部

# 1. 実施概要

関東支部では、平成27年度より(一社)斜面防災対策技術協会関東支部との共催事業を行っております。 令和5年度は群馬県南部に位置する大規模地すべりである譲原地すべりの現状について学び、既往の対策施設及び施工中の対策工の現地見学会を行いました。

表-1 「譲原地すべりと対策工事の見学」の実施概要

開催日	令和5年11月22日(水)				
開催地	群馬県藤岡市譲原地区				
主催	(公社)日本地すべり学会関東支部				
	(一社)斜面防災対策技術協会関東支部				
協力	国土交通省 関東地方整備局				
	利根川水系砂防事務所				
参加者数	34 名				

#### 2. 内容

譲原地すべりは、群馬県南部を流れる神流川流域の下久保ダム下流に位置しており、平成3年(1991年)10月の豪雨により地すべりの動きが活発化し、河川と平行する国道462号や周辺の人家に被害が発生しました。これを契機として平成7年度より直轄事業化され、現在までに集水井や排水トンネル等の抑制工、アンカーによる抑止工が施工されています。

見学会では、はじめに隣接する譲原防災センターにおいて、譲原地区の現状や地すべり対策の概要、集水井の内部を真横から観察できるトンネル型の施設などを見学しました。ここでは、3名の砂防ボランティアの方から説明を頂きました。その後、地すべり末端部へ移動し、利根川水系砂防事務所のご案内のもと、排水トンネルの内部とアンカー工を見学しました。アンカー工は施工中の現場を案内して頂いたため、各施工段階のアンカー頭部の状況や、施工中に行う載荷試験を見学しながら、詳細な説明を伺うことができました。

#### 3. おわりに

関東支部では、今後も(一社)斜面防災対策技術協会関東支部との共催事業を実施する予定です。最後に、 見学会を合同で開催しました(一社)斜面防災対策技 術協会関東支部の関係各位に厚く御礼を申し上げると 共に,ご協力いただいた国土交通省関東地方整備局利 根川水系砂防事務所の関係者の皆様,並びに現地にて 丁寧なご説明を頂いた砂防ボランティアと佐田建設株 式会社の皆様に感謝申し上げます。



写真-1 集水井内部の見学



写真-2 施工中のアンカー工を見学



写真-3 集水井見学トンネルを背景に集合写真 (関東支部幹事 木村勝美,林一成)

# (公社)日本地すべり学会関東支部 「地すべり対策技術に関する基礎勉強会 -地すべり地形判読-」開催報告 (公社)日本地すべり学会関東支部

## 1. 実施概要

本勉強会は、地すべり対策技術について、ベテランの実践的知識を若手が学ぶ機会として開催しました。今回は第1回目として「地すべり地形判読」技術の基礎について勉強会を行うとともに、アイトラッキング(視線計測)技術を用いた実践形式の講習を行いました。

(1) 開催日: 令和6年1月20日(土)

(2) 開催地:東京都市大学 横浜キャンパス

(3) 主催:(公社)日本地すべり学会関東支部

(4) 講師:檜垣大助(日本工営株式会社)

(5) 参加人数: 25 名(うちフェロー5 名)

#### 2. 内容

地すべり地形判読に必要な地形の基礎を 習った後に、フェローのサポート受けながら参加者が与えられた実例から各々地すべり地形の範囲を抽出した。抽出の方法は地 形図や地形表現図、アナグリフ、空中写真を使用した。その後、ベテラン講師が地形を 判読を行う際に地すべり地形をどのように 発見し、地すべりの範囲を決めているのかを可視化して学ぶため、アイトラッキングを使用した。その際、講師には判読時の着 眼点や注意点を口頭で説明してもらいながら、受講者は自身の判読との相違点や描き方のコツを教わった。終了前には質疑応答の時間を設けられ、活発なやり取りが交わされた。

## 3. おわりに

関東支部では、今後も現場に密着した講習会や現地検討会、学生・若手技術者の育成をテーマとした活動を実施していく予定です。

最後に、勉強会の開催にあたり、会場提供などでご協力頂いただいた東京都市大学と関係者各位には大変お世話になりました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。

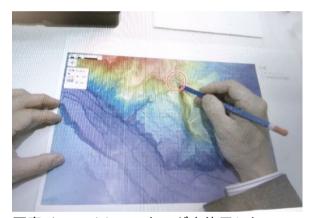


写真-1 アイトラッキングを使用した 地形判読



写真-2 勉強会の様子

# 支部会員の皆さまへのお知らせ

# 1) 学会名簿(会員情報) について

関東支部総会の支部会員の確定は、年度末に学会に登録された会員情報(以下学会名簿と呼ぶ)に基づいて行います。また、支部会員への総会の連絡は、学会名簿に掲載されたメールアドレスに電子メールにより行います。年度末には、学会名簿の記載内容をご確認いただくとともに、変更があった場合は速やかに変更を行ってください。

## 2) 支部行事の連絡について

関東支部の行事の連絡は、主として、①学会メーリングリスト、②関東支部 Webページを通じて行います。学会メーリングリストにぜひ登録してください。

#### ●学会名簿

学会名簿に記載された会員情報の確認と変更は、学会 Web ページから行えます。 学会 Web ページ→会員→会員情報の確認と変更 https://japan.landslide-soc.org/join/update.html

#### ●学会メール配信サービス

学会メーリングリスト(jisuberi)への登録等は、学会 Web ページを参照してください。

学会 Web ページ→会員→自由参加のメーリングリスト https://japan.landslide-soc.org/join/mailinglist.html

#### ●関東支部 Web ページ

学会 Web ページから、「関東支部」をクリックしても入ることができます。 https://japan.landslide-soc.org/kanto.html